

横浜市の拠点病院構想

- conceptの重要性:基本は「医療の質」の向上
 1. 小児救急 24時間・365日 対応できること。
 2. しかし、小児科医が疲弊しない体制であること。
 3. 病院名が明らかにになり市民に安心感を与えること。
 4. 小児科医を地域で育成できること。
 5. 派遣大学に拘わらない地域小児医療体制の樹立。
- 収益増が見込まれること
 1. 拠点化による患者数の増加
 2. 医療の質の向上による市民の信頼

7カ所の小児科拠点病院を指定、小児科医11～15名(大学の仕事)、人数増加分を予算措置(行政の仕事)、2～3年以内に完成。

横浜市拠点病院・高次病院連携

乳幼児人口(0~5歳)
平成17年1月1日現在

昭和大学藤が丘病院

昭和大北部病院

横浜労災病院

東部病院

聖マリアンナ医科大学
西部病院

市民病院

みなと赤十字病院

市大附属市民総合医療センター

横浜医療センター

南部病院

市大附属病院

青葉区	19368
港北区	17406
鶴見区	15158
戸塚区	15079
都筑区	13975
旭区	13240
港南区	11952
神奈川区	10970
金沢区	10888
緑区	10650
保土ヶ谷区	10264
南区	9074
泉区	8966
磯子区	8493
瀬谷区	7842
栄区	6813
中区	6366
西区	3827

拠点病院構想を阻害する因子

- 二次輪番制度で潤っていた病院の抵抗
- 小児科医の配置が減少する病院の抵抗
- 拠点病院側の初期投資への恐怖
- 予算化を渡る行政側の抵抗
- 病院が遠くなるという利用者(代表)の抵抗

救急部会で構想実現の方向へ

- 横浜市医師会の賛成
- メディア代表・母親代表の応援
- 先行していた藤沢市民病院のデータ